



私たちの直接の祖先であるホモ・サピエンスは20万年前に出現したとされる。地球史的时间でいえば、ついさっきの出来事といえる。やがて、他の生物とは決定的な差をつけ、その進歩と発展によって、この地球上の実質的支配者となり「人間」を確立してきた。

命の途中



辻畑 隆子

なんと絶滅したネアンデルタール人の遺伝子の2%は現代の日本人にも内在しているという。大昔の地球事情などまったく想像もつかないが、命のバトンはなんとか受け継がれてきたといえる。

13世紀、アジア大陸に世界最大の帝国を築いたチングスハンはあまりに有

名だが、9歳で父を殺され、母や姉弟たちと荒野で貧しさと飢えとさいなめに耐えたという。そして生き抜くために、遊牧民が決して口にしない魚まで食べた。遺伝子を調べたところ、現在直系の子孫は1600万人とか。私たちは誰でも父母がいるから生まれてきている。計算をしていくと10世代前で1024人、20世代前で100万人以上がいて今の自分がいることになる。

はて？ あと100年後、千年後、今のこの時代はどんなふうにならるか。何が残っていくのか。例えば、今の私たちが法隆寺を見て感動するように。はるか遠い時代から受け継がれる命、いわゆる「命の途中」は、生きて死んでまた生まれて生き続ける。

(彫刻家・日出町)